ふるさといわて創造レター



[発行者] ふるさといわて創造協議会事務局 岩手大学COC推進室 Tel. 019-621-6053 E-mail cocplus@iwate-u.ac.jp

キックオフフォーラムを開催しました

ふるさといわて創造プロジェクトの目標である県内就職率10%向上を達成するためには、地元就職に対する学生 の意識を地域が理解しなければなりません。3月7日、学生から見た地元就職の現状と課題を地域で共有することを 目的に、「ホンネを語る場~学生のホンネを知って地元採用につなげよう~」と題して本プロジェクトのキックオフ フォーラムを感岡市内で開催しました。県内及び首都圏の学生10人をパネリストに迎え、就職活動の体験や若者の 地元定着の方策について語り合いました。会場には県内外から約180名が参加し、学生の本音に耳を傾けました。

就活学生、ホンネを語る。



泉澤 光紀さん 北里大海洋生命科学部4年 (釜石市出身)



星 裕樹さん 横浜国立大教育人間科学部4年 (福島県出身)



杏林大外国語学部4年 (長野県出身)



浅沼 美咲さん 感岡大文学部4年 (花巻市出身)



遠藤 亮介さん 富士大経済学部4年 (岩手町出身)





岩手大農学部4年



蒲 鈺(プユ)さん 岩手大人文社会科学部4年 (电阻用由)



小野 祐耶さん ·関工業高等専門学校 物質化学工学恵改1年 (奥州市出身)

司会

ました。

難しい気がしました。

とは違うと感じました。

か。



自分の適性とは 就活へ揺れる心

思っていました。その前にもっと漁業につい

て学ぼうと考え、1年間ノルウェーに留学し

描けず、都会の方が可能性があるのではな

いかと思いました。原子力発電所の事故で

地元が汚染されていく現実から目を背けた

い気持ちと、復興の役に立ちたい気持ちの

間で揺れました。また、都会から田舎に戻る

のは簡単ですが、田舎から都会に出るのは

山崎 都会暮らしは物価が高くお金がかか

ります。地元の方が出費が少なくて済むた

め、地元就職を希望しました。サッカーが好

きでインストラクターを目指し、インターン

シップに行きましたが、思い描いていた世界

地元に残った自分の明るい未来を思い

佐藤 明日香さん 富士大経済学部4年 (感岡市出身)

就職活動前に行ったことはあります

初めから実家で漁業に携わろうと



萩原 千尋さん 岩手県立大総合政策学部4年 (奥州市出身)

八重樫 桃子さん

(北上市出身)

浅沼 元々、教員志望でしたが、教育実習を 経験し、憧れだけで仕事をすることはできな いと思いました。自分の適性を探るため市役 所のインターンシップを受け「ここで働きた い」と強く感じました。

遠藤 ホッケーばかりやってきたため、自分 の職業適性が全く分かりませんでした。人の 笑顔が好きで介護職を目指しましたが、親や 教授に反対されました。企業の合同説明会 に出向き、結果的にそこで出合った介護職で はない職種に就職することになりました。

小野 県内に就職したいと思い、インターン シップに行きました。興味を持った開発分野 では大学院卒業の人が多く、やりたいことを 仕事にするためにはもっと勉強しなくてはい けないと気付き、進学を考えるようになりま した。

佐藤 ハンドボールを指導したくて教員を 目指しました。しかし教育実習で、教員はハ ンドボールを教えるだけではなく、他にも仕 事をしなければいけないと知りました。岩手 で開催される国体で選手として活躍したい



司会·小野寺 純治

ので、地元で就職しよ うと決めました。

萩原 大学のキャリ アセンターのガイダン スには毎回参加しま した。インターンシッ プに参加して自分は

生まれ育った地元で伸び伸び仕事がしたい のだと気付き、放送委員などの経験を生かし たいと思いマスコミを志望しました。

八重樫 就職において大切にしたいのは▽ 給料▽福利厚牛▽勤務地一の三つ。北上市 内の企業を見学するバスツアーに参加し、そ こで働く人の表情などを見て自分が働くイ メージをつくりこんでいきました。

蒲 地元は重工業地帯で、幼いころから環 境が悪く苦労しました。資本主義の産業社 会では、多くの人は消費者側で、生産者と廃 棄者側の仕事をしたい人は少ないと思いま す。社会人になったら、ぜひ生産者・廃棄者 側の仕事をしたいと思っていました。そんな 自分が鶏の生産、加工から鶏ふん処理など の全てが詰まった会社に勤めることになった のは、自然の流れだと思います。

理想と違う現実 悩んだ末の選択

司会 就職活動本番についてもお聞かせく ださい。

蒲 1月に就職活動を始め、3月に内定をも らいました。まさに短期決戦です。決め手は インターンシップで業務の全ての過程を実 際に見ることができたこと。自分の仕事のイ メージにぴったりでした。

八重樫 バスツアーは、働く人の顔が見え、 資料をもらうことができました。合同説明会 で他の市町村も考えましたが、自分の出身 地であることと、熱い思いが伝わってきたこ とが決め手となりました。



「ホンネを語る場~学生のホンネを知って地元採用につなげよう~」と題して開かれた〇〇〇+キックオフフォーラム=3月7日、盛岡市内

Uターン促進へ 地元PRもっと

強をやめ、教員採用

試験の勉強を始めました。人生を終え

るときに悔いのない

職業に就きたいと思

泉澤 海洋生命科 学部で学んでいたの

で、当然海洋関係の

知識が豊富になり

ます。その知識を生

かしたかったので、

漁業以外に従事す ることは考えません

いました。

でした。

司会 地元にUターンしやすい環境をつくる ためには何が必要だと考えますか。 ハ重樫 働く場所は住む場所でもあります。

八重樫 働く場所は住む場所でもあります。 どれだけ地域が住みよい場所かをPRすることが大切だと思います。

司会 岩手県についてどう思いますか。

浦 中国に降る雪は3日で黒くなります。岩 手の雪はいつまでも白いままです。とても良い 場所で、岩手で働けることに満足しています。

星 地元の人が知らない地元の魅力は多いはず。もっと岩手の魅力を発信すべきだと思います。

司会 進路決定に際して誰に相談しましたか。 萩原 希望の会社に内定がもらえず落ち込んだとき、大学のキャリアセンターが親身に話を聞いてくれました。

司会 就職先が決まっても継続して課題を 抱えている人は。

蒲 外国人には就労ビザ取得の問題があります。今後どうなっていくのかとても不安です。星 福島は好きですが、残らないと決断しました。地元を見捨てた罪悪感が大きいです。

学生の思い知り 地域も変わろう

【会場の質問】

JA県中央会 家族から地元に残ってほしいというプレッシャーはありましたか。

山崎 はっきりとは言われませんでしたが、 戻ってほしいと思っていることは感じていま した。

浦 祖母は介護が必要で、帰って家族を支えなければと思っていましたが「もう一人前なのだから、行きたい方向に進みなさい」と言ってもらい、喜んで日本に就職を決めることができました。

釜石市役所 釜石では高校生が「地元のすごい人」を知るきっかけをつくるキャリア教育事業を始めました。それぞれの地元にかっこいいと思える人はいますか。

遠藤 大学の監督です。平日仕事をし、休日 練習に来て、自分のプライベートを犠牲にし て私たちを指導してくれます。熱い思いが伝 わってくる尊敬できる人です。

職活動は厳しく、県内のマスコミは全て駄目でした。どうしたらいいか分からなくなったとき、大学のキャリアセンターや先輩に相談し、自分は視野が狭かったと気付きました。岩手に残りたい一心で活動し、他の業種で

萩原 地元のマスコミを希望しましたが就

内定をもらいましたが、他業種を見てみたことでより一層マスコミへの思いが強くなり、 再び情報収集しました。結果、広告代理店に 就職を決めることができました。

佐藤 国体出場を応援してくれる企業に勤めたいと考えました。国体強化選手の合同説明会で今回内定をもらった企業に出合いました。仕事がメーンでハンドボールをサブでできる会社を考え、自分の理想にぴったりだと思いました。

小野 就職と進学とを悩んで、専攻科に進学することを決めました。先輩や同級生たちは生活の安定性を求めて、首都圏の大手メーカーを受けた人が多いです。

遠藤 介護職を親や教授から反対された理 由は、大変な仕事なのに給料が低いことや 人手不足で休暇が取りにくいことです。介護 実習の現場で、つらい実情を目の当たりにし ましたが、それでも介護職に就きたいと自分 なりの覚悟がありました。懸命の説得に親や 教授も最後は理解を示してくれましたが、一 方で、ホッケーを続けるのであれば休みが取 りにくいのは大変だという悩みもありました。 浅沼 教育実習をして、教員はとても大変な 仕事だと思いました。授業のために夜遅くま で準備をし、前日まで悩みながら当日を迎え ます。夜遅くまで学校で準備をすることも珍 しくなく、その後体調を崩してしまいました。 たった一カ月の実習がとても大変だなと感 じ、自分にはこれを一生の仕事にするのは難 しいと思いました。

山崎 長野の会社で東京でも説明会をしてくれるところがありました。新しい情報を得るためにはとても便利で、東京と長野の二カ所で説明会に通いました。

星 公務員を目指していましたが、教育実習で教員という職業の素晴らしさに感銘を受け、一般企業への就職活動や公務員試験勉

【最後に】

司会 コメンテーターの皆さん、学生の話を聞いてどう感じましたか。

山崎リクルートキャリア新卒事業本部執行役員 「どこで働くのか、何をするのか、それはなぜなのか」ということを、学生は考え就職します。「いつ考え、どう悩みながら決めるのか」というリアルをもっと深く知るべきだと感じました。将来を決めるためにどれだけの比較検討ができるのか、そのための情報提供と体験の機会創出を私たちはしていくべきだと思います。

鈴木県立大学長 地方の魅力を知るだけでなく、これからは地元の魅力をつくっていかなければいけないと思います。学生の皆さんはインターンシップが有効だと言いましたが、中には時間ばかりかかって成果が上がらないと考える企業もあるようです。企業と大学が一緒になってインターンシップをどのように生かすかを考えたいと思います。また、皆さんは今スタート地点に立っていますが、興味の先は今後変わっていく可能性があることも頭の隅に置いてほしいと思います。

岩渕岩手大学長 大学で4年間学んだ専門性を生かして職に就く人と全く違う職に就く人がいます。大学教育における専門性と課外活動がその人のライフデザインにおいて大きなウエートを占めることをあらためて理解しました。目指すはグローカルな人材の育成。地域に根差し地域の課題を解決する人が必要なのは世界共通の問題です。例えば釜石の水産業の会社がアジアや世界とつながれば、釜石イコールグローバルになります。地域に定着するとは、ただ勤めればいいということではありません。

司会 「COC+」は学生が主役。学生が本音を話してくれた、きょうが始まりであり、キックオフです。地元大学生の地元定着だけではなく、Uターン・Iターンなど一度地元を出た人材に戻って来てもらうための取り組みも進めていきたいと思います。目指し、地域産学官が一体となってこの課題の解決を目指して参ります。

まとめ

東日本大震災以降、協調調和型の就職を 望む学生が増えてきており、岩手に留まる学 生は着実に増えてきています。学生は「就職」 という人生の岐路に立っているんな人に相 談したり、インターンシップなどへ参加したり して、悩みながら就職先を決めています。しか し、岩手に就職した大学生の43%が3年以 内に離職しており、全国平均(32%)よりも 10%以上も高い数値となっています。これは 学生にとっても地域にとっても不幸なことで あり、この点を改善しなければ岩手の創生は ないといっても過言ではありません。ふるさ といわて創造プロジェクトでは一人でも多く の若者が地域で生き生きと活躍する岩手を 目指し、地域産学官が一体となってこの課 題の解決を目指して参ります。